た。8二〇周年記念出版事業についての報告がなされた。

（古尾谷知浩）

木簡学会役員（一九九九・二〇〇〇年度）

会長　佐藤　宗諄

副会長　鎌田　元一　田辺　征夫

委員　今泉　隆雄　岩本　正二　櫛木　謙周
栄原永遠男　佐藤　信　清水　みき
舘野　和己　寺崎　保広　東野　治之
西山　良平　平川　南　本郷　真紹
籾山　明　山中　敏史　和田　萃
渡辺　晃宏

監事　石上　英一　岩本　次郎

幹事　岩宮　隆司　鷺森　浩幸　鈴木　景二
鶴見　泰寿　土橋　誠　西村さとみ
馬場　基　古尾谷知浩　増渕　徹
山下信一郎　山本　崇　横内　裕人
吉川　聡　吉川　真司

編集後記

今年もあと僅かとなり、『木簡研究』の編集後記を書く季節になった。今号は各地の報告がついに一〇二件となり、昨年の記録をまたも更新した。これに論文・書評を加えると、優に三〇〇頁を超える。ご味読・ご検討をお願いする次第である。

さて、『木簡研究』は実に多くの人々に支えられている。お忙しいなか、各地の情報をご執筆いただいた調査担当者の方々、論文・書評をお寄せいただいた山口さん・杉本さん・北村さん・平石さんに、心からお礼申し上げます。委員や若手の幹事の皆さんにも、たいへんお世話になった。また、事務局で編集を担当されたのは、新進の吉川聡さんである。聡さんが、遅くまで机に向かっている姿が目に浮かぶ。

顧みれば、昔の『木簡研究』に比べ、昨今は二倍の分量がある。これだけの厚さを、この精度・内容で出し続けるのは、なかなかの作業である。編集上の工夫が、何か必要な段階に達しているかに思われる。

この編集後記は、一一月の初めに書いている。正直なところ、この後記が大会の当日に、会員の皆さんの目にふれていることを切に望んでいる。

（西山良平）